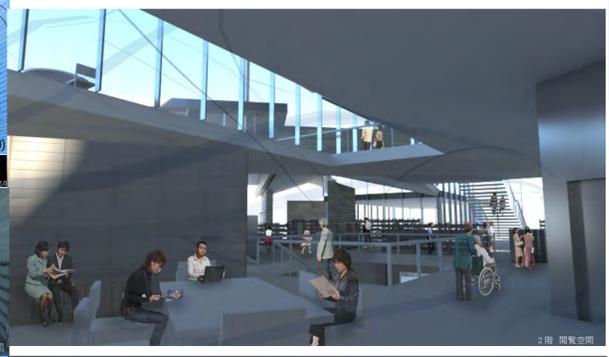
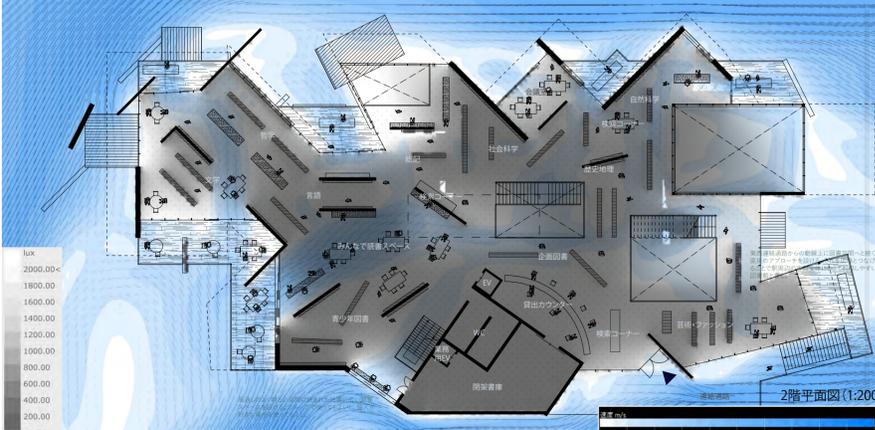
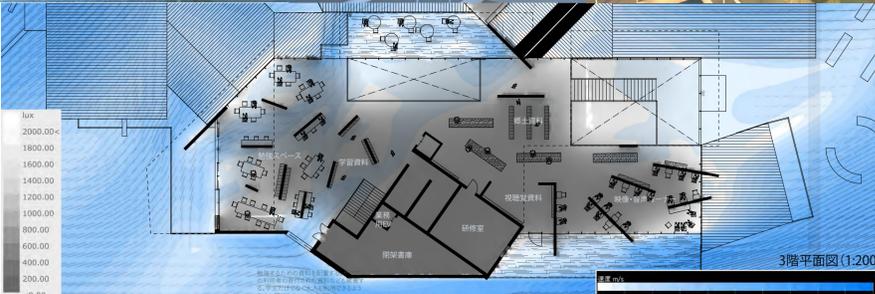


落ち着いたまち、黒磯 周辺地域について

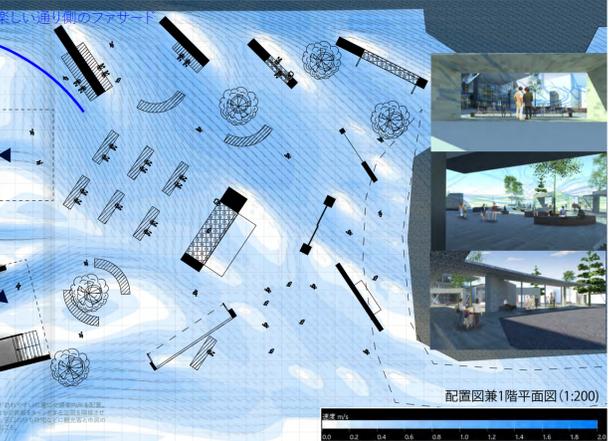


裂け目の建築 - 散らばる壁と屋根



メインライブラリーとしての2階
すぐに見つけた本を参照できるように、閲覧室と開架図書を入り乱れるように配置する。光と風による環境にムラがあり、自らの快適に思う場所を選び、利用者は選べる。多様な本棚の配置によって、本を見つける楽しみ、目的ではない本にであう偶然性を重要視した配置計画とした。

屋内広場としての1階
多種多様な機能が混在し、様々な利用者がいる空間となる。通り抜けという外部空間と一体となった内部空間のデザインを心掛け、入ってみたいくなるファサードや半屋外空間を意識した。



駅前「コンビニ」図書館

みんなでいたい、一人でいたい。でもみんなを眺めていたい。騒ぎたい、静かに落ち着いていたい。遊びたい、勉強したい。そういった様々な活動、利用者空間が小分けに入り乱れた「コンビニ」のような図書館を考える。

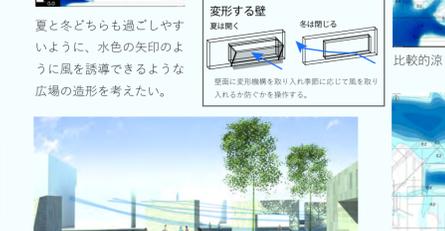
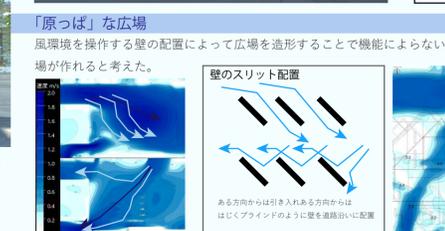


黒磯の気候 - study of wind

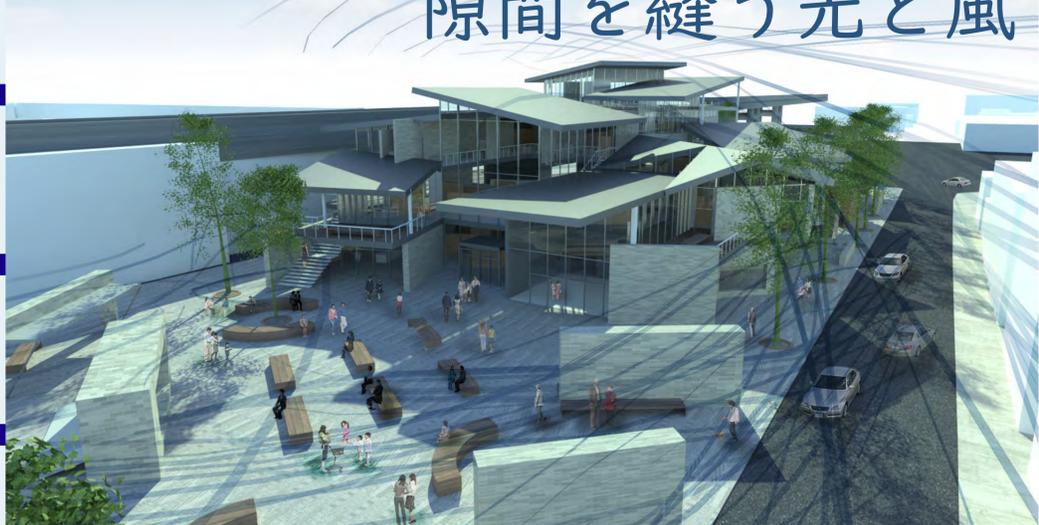
気象要素	単位	黒磯	那須塩原
観測年数	年	1981-2010	1981-2010
観測所		黒磯	那須塩原
最高気温	℃	20.0	20.0
最低気温	℃	10.0	10.0
平均気温	℃	15.0	15.0
最高湿度	%	85.0	85.0
最低湿度	%	45.0	45.0
平均湿度	%	65.0	65.0
最高風速	m/s	15.0	15.0
最低風速	m/s	0.0	0.0
平均風速	m/s	5.0	5.0
最高降水量	mm	150.0	150.0
最低降水量	mm	0.0	0.0
平均降水量	mm	100.0	100.0

黒磯は30年間の最高気温が28.4℃であり、夏であっても激しい暑さはない。一方で冬は少し厳しい寒さ。

暖かい時期に南から風が吹き、それ以外の季節は基本的に北北西の風が吹く。(これは那須おろしという局所風)



隙間を縫う光と風

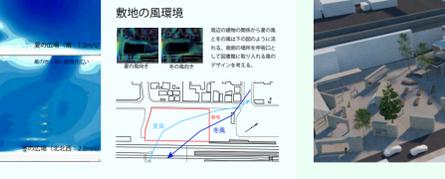


広場から考える図書空間

広場と一体的な図書館のあり方を模索し、多様な居心地のよい空間を生むという出発点で考えた。今までと異なり、機能から設計を考えるのではなく、数値化された純粋に空間の快適さからデザインを考えていく。そうすることで、演出じみでない「原っぱな」空間を作ることができるのではないかと考えた。



中間からの発展 - study of light



採光の分散

その奥にいくにつれて暗くなっていく照度分布の急激な変化を和らげ、全体的に柔らかな光の届く空間をつくる。

展示空間
展示空間の奥側には天井が高く、天井からの採光が弱くなる。透明性の高いガラスのファサードにするが、このままでは全体として明るすぎず、改善策としては、屋根を分割し、すし、傾ける。壁を通り空間に配置することで採光面積を狭め照度の低い空間をつくり、屋外と一体となった展示空間をつくる。すれ部分に高窓を設けて、2階部分にも柔らかな光を届ける。



南側図書空間

本を守るためと閲覧するための照度としても少し暗いところも明るくもあるムラのある環境空間とする必要がある。

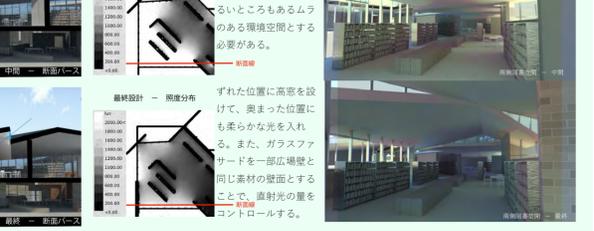
南側図書空間
すれ部分に高窓を設けて、奥まった位置にも柔らかな光を入れる。また、ガラスファサードを一部広場壁と同じ素材の壁面とすることで、直射光の量をコントロールする。



光を遮る壁の連なり

夕日の遮断
通り側一帯がガラスで開かれているので夕日差し込み空間になっている。本棚に対して西日が当たる面積を減らすように壁を斜めに配置し、夕日差し込みを遮断する。

透光の壁面
ガラス面のファサードに壁を設置する。採光面積を減らし、窓の照度を和らげる。内部の機能に応じて配置された透光の壁がファサードに表れる。



陸屋根の場合は黄色い高い照度分布が広い範囲で分布するが、外部やファサードに壁面と屋根を付加することで資料や閲覧室の空間を守る。夕日を感じる空間とそうでない空間を生み出す。



壁の揺らぎ - study of wall

壁の揺らぎが空間をつくる。
広場内に風があまり入ってこないように広場の壁を閉じる。広場内は風速が最大でも0.5m/sほど

